



北海道産業貢献賞を
賞した
レークヒル牧場社長
塩野谷幸一さん(66歳・花和)

アイスクリームなどを目当てに多くの観光客が立ち寄り、町内の観光名所の一つにも数えられるレークヒル牧場。農業者が製造、販売まで行う6次産業化の取組みの先駆者として、その先進的酪農経営が大きく評価されました。

牛乳の付加価値化と地産地消を目的に、平成3年にイタリアミラノに渡航し、アイスクリーム製造を学んだ後、平成4年に自社牧場内にアイスクリーム工場を開設しました。現在、土づくりからこだわった良質な牛乳による乳製品を販売するレストランには、年間15万人の来訪者を数えています。平成13年には、酪農体験などを通じて教育活動を行う酪農教育ファームの認証を受け、搾乳やバターづくり体験など消費者との交流にも積極的に取り組んでいます。

「家族でやってきたことが評価されておりありがたいが、あまり実感がありません。日々の仕事の延長に受賞があった」と謙虚に語ります。「ヨーグルトなど新たな乳製品の加工などもできればやってみたい」とこれからの想いを話しました。

災害時の対応を
学ぶ防災学習会

2月22日、ウイメンズネットワーク(青木佐智子会長)が主催する「防災学習会」が役場防災研修ホールで開かれ、会員や自治会役員など約50人が参加し、防災への知識を深めました。

最初に役場企画防災課兼村憲三主査が、防災行政無線の設置や津波ハザードマップの作成など町の防災対策の現状について説明。引続き一般社団法人北海道LPガス協会の石原昭一防災アドバイザーが講演し、LPガスの活用や日頃からの防災、減災対策などについて述べられました。



日頃の備えについて学ぶ皆さん

気象台からの
防災メモ

- 津波警報が変わります -

気象庁では平成23年の東日本大震災を踏まえ、平成25年3月7日正午から、「新しい津波警報」の運用を開始します。

この新しい津波警報では津波の高さを小さく予想することを防ぐため、巨大地震発生時に限り、その海域における最大級の津波を想定して発表します。このとき、3分を目途に発表される最初の津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」、「高い」という表現で発表し、非常事態であることをお伝えします。その後、正確な地震の規模が分かった段階で、予想される津波の高さを5段階で発表します。

津波警報は、津波による災害の発生が予想される時に発表する重要な情報です。津波警報を見聞きしたら、直ちに高台など安全な場所へ避難をお願いします。

詳しくは、室蘭地方気象台ホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/muroran/>)をご覧ください。

問合せ 室蘭地方気象台
防災業務課
(☎0143-22-4249)

区分	予想される津波の高さ	
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の場合 の表現
大津波警報	10m超 (10m超)	巨大
	10m超 (5m超～10m以下)	
津波警報	5m超 (3m超～5m以下)	高い
	3m超 (1m超～3m以下)	
津波注意報	1m超 (20以上1m以下)	(表記しない)